

「羅臼高等学校のE S D教育」
～ふるさとを愛する生徒の育成～

北海道羅臼高等学校
校長 渡辺 祐司
担当 島村 真幸

1 本校の特徴

研究主題「地域に根ざした人材育成のための効果的なキャリア教育のあり方」
研究の目的

小学校、中学校、高校が地元自治体や企業等と連携し、地域や産業のしくみを児童生徒に理解させる活動を通して、児童生徒が地域の課題を認識し、主体的・協働的に課題解決に取り組むことにより、ふるさと羅臼の良さを理解させるとともに、発達の段階に応じた体系的なキャリア教育を推進する。

2 活動全体計画

〈地域大好きプロジェクト〉

- ①キャリア教育全体計画の作成（幼少中高）②キャリアノートの作成（小中高）
- ③運営型プロジェクト「知床びらき」のイベント協力・ボランティア参加（小中高）

- ④地域人材等を活用した講師による「講演会」の開催（幼少中高）
- ⑤インターンシップの実施（中高）⑥医療現場の見学体験（中高）
- ⑦学習発表会の実施（小中高）

〈子ども大好き！プロジェクト〉

- ①家庭や子育てに関する「座談会」（高）
- ②次代の親づくりのための出前事業（高）
- ③「家庭科」の副読本の活用について（高）

〈その他の取組〉

- ①小中高合同環境保護活動（町内一斉清掃）
- ②町の観光協会主催の町内ガイド養成講座 15名参加
- ③授業におけるふるさとを知る取組の実施（自然環境科目群等）

3 特徴的な活動事例

授業での取組①（音楽表現）



12月中旬、音楽表現選択の12名が2つの幼稚園を訪問し、音楽の楽しみを共有した。園児達は目を輝かせて演劇を鑑賞し、ピアノ、フルート等の演奏を楽しんだ。内容はブラックライト劇「魔女の宅急便」。手話の歌「僕らはみんな生きている」。山の音楽家、「楽器を体験してみよう」等。授業の中で生徒達が企画運営をした。園児との交流は次世代の親になる彼らにとって大変貴重な体験である。



授業での取組②（海洋生物）

「海洋生物」（水産教室）は町教育委員会主催で、羅臼漁業協同組合の協力のもと32年目を迎え、先輩達は浜のリーダーとして活躍している。この授業はダイビング実習や水産企業訪問、ロープワークや海鳥の生態系などを学び知床の自然や地域に対する意識を養うとともに、海の素晴らしさを改めて知る機会が多い。「地元の人」からたくさんのことを学び羅臼町はもちろん、世界自然遺産「知床」の良さを十分理解する授業である。

授業での取組③（フードデザイン）

「らうす大漁焼（H25）」、「紅白揚げ（H26）」、そして今回「およげ！コブスケ～らうすスケソパイ and 昆布ご飯～」で見事高校生チャレンジグルメコンテスト3度目の大賞を受賞した。町教育委員会支援のもと地元の食材選びから始まり、地元飲食店の料理人さんにメニューの相談をし、試作を繰り返しレシピを完成させた。試食会



を実施したほか、町の祭り等にも出店し、よりよい味を追求した。メンバー以外の生徒も帽子などの小物づくりやお品書き作成などの協力し、オール羅臼高校でコンテストに出場した。この取組はまさに主体的、協働的、深い学びにつながっている。さまざまな人との関わりからできあがった、心温まる一品である。

4 成果と課題

〈成果〉（地域大好きプロジェクト）

- ①地域の良さや地域での生活を営むことの意義等について理解を深めることができた。（地域の特性や教育資源を生かした取組を実施）
- ②地域の人材等を活用したキャリア教育の講演会を開催でき、地域の魅力を再発見するなどの効果があった。

〈課題〉

- ①キャリア教育に関する取り組み状況を分析し、課題を明確にすること。
- ②全体計画の見直しと相互の関連性を検証すること。
- ③今年 ESD 委員会を発足させたが次年度は ESD を通して学び続ける教員集団をつくる。
- ④生徒自身が町の活性化や羅臼町の展望を積極的に考える教育活動を進めていく。